

A **子ども支援課長** 保護者が労働などで昼間家庭にいない児童に対して適切な遊びと生活の場を与え、児童の健全な育成を図る目的がある。令和3年度は全体で839人の登録があった。小学校区の指定がない、一本松学童クラブ及びびくろーパークラブでは、自動車、バスでの送迎を行っている特色がある。特に一本松学童クラブでは、保護者のニーズから、終了後に児童を自宅へ送り届けている。



都市計画道路等見直し事業

Q 都市計画道路の見直しの状況は。

A **都市計画課長** 埼玉県には、都市計画変更の見直しについてご指導を受け、埼玉県警察には、交差点などの交通安全対策について協議をしてきた。また、令和4年5月29日には、2回に分けて住民説明会を実施し、ご意見などをいただいた。

いじめ対策・不登校支援等総合推進事業

Q コロナ禍における不登校の子ども数の推移とスクールカウンセラーの体制は。

A **教育センター所長** 不登校児童は元年度、25人に対して、3年度は50人、不登校生徒は元年度、70人に対して、3年度は93人と増加傾向にある。児童・生徒、保護者への周知が進み、相談件数が増加している。全校にスクールカウンセラーを配置しているが、今後も課題と捉えている。



翻訳機

日本語未習得児童生徒支援事業

Q 外国籍児童・生徒の増加に伴う対応は。

A **学校教育課主席主幹** 元年度の外国籍児童・生徒は46人、3年度は63人と年々増加している。日本語に慣れていない児童・生徒は、翻訳機を使用し、鶴ヶ島市国際交流協会や鶴ヶ島国際友好ふれあい会にご協力をいただき通訳の対応をしている。

脚折のケヤキ保護保全事業

Q 事業内容について。

A **生涯学習スポーツ課長** 白鬚神社が所有する県指定天然記念物の脚折のケヤキを保存するために、ケヤキの支柱の改修及び過去に治療した箇所の再治療の経費の一部を補助した。



脚折のケヤキ

小学校情報教育推進事業 中学校情報教育推進事業

Q 情報教育環境の現状について。

A **学校教育課長** 本格導入から一年以上がたち、多くの教員が積極的に学習用端末を活用しており、教員の苦手意識も徐々になくなりつつある。ICT支援員が実施する研修により、授業での活用方法などを学ぶことができ、授業の幅が広がった。コロナ禍で、学習用端末の積極的な活用が進む場面が増えてきている。

特別会計

国民健康保険

Q コロナ禍での傷病手当金の受給状況は。

A **保険年金課長** 受給件数は、2年度が1件、3年度が18件と伸びている。



介護保険

Q 収入未済額と不納欠損額状況は。

A **介護保険課長** 収入未済額は、396万3700円、滞納繰越分が212万9435円となっており、3年度の収納率が2年度よりも向上した。不納欠損額は、前年度比9万8412円の減となった。



特別会計決算

国民健康保険

歳入 70億6525万円
歳出 68億6800万円

後期高齢者医療

歳入 8億5598万円
歳出 8億5270万円

介護保険

歳入 47億8194万円
歳出 46億1913万円

一本松土地区画整理事業

歳入 1億5390万円
歳出 1億3676万円

若葉駅西口土地区画整理事業

歳入 3億7205万円
歳出 3億5457万円